

実習訪問指導記録、評価票、日誌等の様式および記載内容に関する調査結果

【これまでの経緯と本研究の目的】

全国保育士養成協議会東北ブロック研究委員会では、質の高い指導を目指して実践されている資料を収集し、それを参考資料として東北ブロック内で共有するために、これまで、次のような調査研究をおこなってきた。

平成 24 年度研究において、全国保育士養成協議会東北ブロックの各会員校の「保育実習指導」の指導実践を集約し、「保育実習指導」についての実態調査を実施した。平成 25 年度研究では、保育実習教育に役立つミニマム・スタンダードとして「保育実習指導Ⅰ」の事前および事後指導について「保育実習指導のガイドライン（東北版）」を策定し、東北ブロックホームページを利用して共有を図っている。平成 26 年度は、これまでの成果を基に、これまで着手していなかった実習訪問指導および実習事後指導に焦点をあてて、指導実践の実態および実践における工夫点などの収集に取り組んだ。

平成 27 年度は、研究テーマを『実習訪問指導記録、評価票、日誌等の様式および記載内容に関する調査』とし、以下の 3 点を目的として検討を進めてきた。

(1) 実習に伴い必要となる書類である、「実習訪問指導の記録」、「実習生調書」、「実習評価票」、「出勤簿」、「日誌」、「指導計画等」の様式および記載内容についての実態調査を行い、標準的な内容を検討すること。

(2) 実習教育に関する実践例を収集し、会員校の参考になりうる例をまとめ、「保育実習指導のガイドライン（東北版）」に収録すること（平成 26 年度研究からの継続検討課題）。

(3) これまでの研究成果等をもとに、ガイドラインの加筆および改訂に取り組み、主に「保育実習指導Ⅰ」および「保育実習指導Ⅱ」での使用が期待できるガイドラインの充実を図り、東北ブロック各会員校での共有を図ること。

本稿では、上記 (1) について実施した「実習訪問指導記録、評価票、日誌等の様式および記載内容に関する調査」の集計結果を中心に報告していく。

【方 法】

- ・対象：全国保育士養成協議会東北ブロック会員校
- ・調査方法：平成 27 年度東北ブロックセミナー（平成 27 年 11 月 7～8 日）出席者に対し、調査の概要を説明し、各会員校に依頼文書（資料の送付のお願い）と調査票（資料についての説明の記入）を配布した。なお欠席した会員校については、セミナー終了後に郵送した。

依頼文書と調査用紙は、40 校 41 課程（青森県 7 校、岩手県 5 校、宮城県 13 校、秋田県 3 校、山形県 3 校、福島県 9 校 10 課程、）の会員校に配布した。

実習指導に関する何らかの資料の提出があったのは、33 校 34 課程であり、回収率（34/41）は 82.9%であった。ただし、実習未実施により今回のアンケートに回答不可能の 2 校 2 課程を除いた回収率は 87.1%であった（34/39）。なお、個別の資料の回収率は異なるため、詳細は、項目ごとの結果において報告する。

また、調査票の回答は、30 校 31 課程からあり、回収率（31/41）は 75.6%で、実習未実施の 2 校を除いた回収率は 79.4%であった（31/39）。

- ・調査内容：各校に提出をお願いした資料は、以下の 7 点である。

誓約書 実習生調書 実習訪問指導の記録 出勤簿 日誌 指導計画案様式 実習評価票
また、調査票に、上記の各資料を指導する際のポイントについてそれぞれ記入を依頼した。